平野区
平野郷コース

歴史とロマンがいっぱいつまった町 平野郷

平野郷は今では大阪市の南端にある一区画にすぎないが、かつては堺と共に誇り高い自治都市として日本の近世史にその足跡を残した町である。

○平野の地名とその由来
征夷大将軍の坂上田村麿の第2子廣野麿が朝廷よりこの杭全荘を賜り、この地を治めていたので、平野は廣野が転訛したものと伝えられている。

○誇り高いその子孫たち
廣野麿の子孫、坂上氏とその傍系に成安、末吉、土橋、三上、辻邸各氏などの七名家が生じ共同して平野郷を治めた。その中で成安道頓は道頓堀を開削した。末吉利方は銀座を創設し、子の吉康と朱印船末吉丸で海外に雄飛し、平野郷代官として、大坂夏の陣で焼亡した町を復興した。また、吉康の子の長方は荒廃した柏原のため、平野川に柏原船を通運させて貢献している。

○市指定文化財の杭全神社連歌所。

平野郷の歴史

平安
八〇〇頃　坂上田村麿の子廣野麿が杭全の荘を領有。廣野麿の子当道が杭全神社を創建。

鎌倉
八六二（貞観4）
杭全荘が平野庄と呼ばれる。

室町
一四六七（応仁元）応仁の乱が起こり、現平野区も戦場となる。
一五九八（慶長3）醍醐の花見に平野酒が用いられる。

安土桃山

江戸
一六〇四（慶長9）末吉孫左衛門吉康、徳川家康から朱印状を受け、ルソンへ渡航。
一六一五（元和元）大坂夏の陣で平野郷焼亡。残った家が九百軒余という。
一六一六（元和2）末吉氏、平野本郷の町割を行う。
一六二七（元和3）朱印船貿易を平野屋源左衛門が杭全神社に奉納する。
一六九四（元禄7）郷代官任命として、平野が初めて大名扱いとなる。
一七〇二（元禄15）平野庄、平野郷町に改称。
一七一七（享保2）今橋筋開設。
一七六三（宝暦13）摂州平野大絵図。
一七八〇（安永9）吉川藩土井氏、陣屋を新設する。

明治
一八七九（明治12）平野本郷の七町を合併して、平野郷町に改称する。
一八八九（明治22）住吉郡平野郷町となる。
一八八九（明治22）大阪砲兵工廠、湊町―柏原間開通。平野駅設置。
一八九八（明治29）東成郡平野郷町となる。

大正
一九一四（大正3）阪堺電気軌道　今池―平野郷町間開通。平野駅設置。
一九二五（大正14）住吉区平野となる。

昭和
一九四三（昭和18）東住吉区となる。
一九七四（昭和49）平野区となる。
一九八〇（昭和55）地下鉄谷町線　天王寺―八尾南間全面開通。
（昭和60）南海平野線廃線。

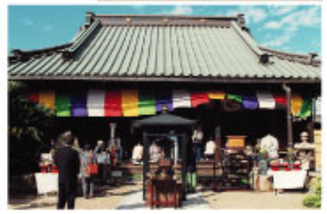
❶ 杭全神社（くまたじんじゃ）
平安時代の初め貞観4年（862年）に坂上廣野麿の子当道が、素盞嗚尊を氏神として祀ったのが始まりといわれ、平野郷一円の守護神として信仰をあつめた。第二殿第三殿は永正10年（1513年）造営の記録があり第一殿とともに国の重要文化財に指定されている。境内には、全国で唯一、連歌所が残っており、市の文化財に指定されている。また、大くすの木は、樹齢850年以上と伝えられ、市の天然記念物に指定されている。毎年4月の御田植神事では、一年間の農作業の手順が猿楽の所作でユーモラスに表現され、7月の夏祭りでは氏地各町から出る九台の地車（だんじり）が勇壮に曳行される。

❷ 環濠跡（かんごうあと）
戦国時代、自衛と灌漑に町の周囲に濠を設けた。今は杭全八幡の北側にその面影を残す。

❸ 坂上廣野麿の墓（さかのうえひろのまろのはか）
平安朝の初め（800年頃）蝦夷との戦いに武功をたてた坂上田村麿の第2子廣野麿が、朝廷から杭全荘を賜り、この地を領有した。廣野麿は、嵯峨、淳和の二帝につかえ、右兵衛佐に任じられこの地に修楽寺を建て、天長5年（828年）3月9日に42才で亡くなった。

❹ 春子姫の墓（はるこひめのはか）
坂上田村麿の女子春子姫は、桓武天皇の妃で天皇の没後、兄の廣野麿を頼ってこの地に住み、慈心大姉と号して長寛寺を開山した。

❺ 長寛寺（ちょうかんじ）
桓武天皇の妃であった坂上春子姫が、平安時代初めの大同年間（806～810年）に出家して開いた真言宗の寺院であり、坂上家の氏寺でもある。鎌倉時代の代表作の「銅鐘」、「釈迦涅槃図」等が重要文化財に指定されている。また室町時代に、当寺の慶心という尼さんが地獄へ行って来り、その様子を記した「よみがえりの草紙」や、閻魔王が自ら刻んだという「閻魔像」と「宝印」が寺に伝わり、毎年5月18日の御開帳の時、おでこに閻魔様の「宝印」を押してもらえば極楽へ行けると伝えられている。



←○坂上田村麿公の肖像画（長寛寺所蔵）

❻ 末吉（西）家の邸宅（すえよし（にし）けのていたく）
平安時代の初めの頃から平野庄を治める坂上氏の子孫、平野七名家の一家。平野郷町誌によると寝工は1707年、築後300年を超す屋敷。○（国の登録文化財）

○万部おねりの菩薩。

大念佛寺に伝わる法明上人ゆかりの大切な宝物「亀鉦」。→

❺ 大念佛寺（だいねんぶつじ）
［国の登録文化財］
融通念佛宗の総本山で、大治2年（1127年）聖応大師（良忍上人）が建立したものである。当寺には国宝「毛詩鄭箋残巻」、重要文化財「融通念佛勧進帳」等があり、総本山特別行事として1・5・9月のそれぞれ16日に百万遍会（大数珠くり）、5月1日～5日の阿弥陀経万部会（万部おねり）はことに有名である。また、本堂は、木造の建物では大阪府内最大のものである。

❾ 含翠堂跡（がんすいどうあと）
平野七名家の一人土橋友直らによって享保2年（1717年）に創設された民間学問所である。経営はすべて同志の寄附金とその運用で維持され郷内の子弟に備えて積み立てを行い、たびたび窮民を救済した。明治5年新学制公布により閉鎖まで155年間郷民の教育や窮民救済にあたった。

⑬ 平野郷樋之尻口門跡（ひらのごうひのしりぐちもんあと）
戦国時代、平野は堺とならぶ自治都市であった。平野郷への出入口は13ケ所に木戸口が設けられた。平野十三口と呼ばれ、樋之尻口門もその一つである。

⑫ 安藤正次墓所（あんどうまさつぐはかしょ）
大坂夏の陣には御旗奉行として徳川秀忠に直属し、功績を挙げる。

⑪ 全興寺（せんこうじ）
平野の広い野に薬師堂が建てられ、その周囲に人々が住みはじめ、野堂町の地名ができた。本尊は薬師如来で、聖徳太子の作と伝えられている。また、真田幸村が磯之尻口の地蔵堂に仕掛けた地雷により飛来したという伝説をもつ「首の地蔵尊」や、湛慶作と伝えられる「太子の像」がある。境内には「地獄堂」や「駄菓子屋さん博物館」もあり、見どころが多い。

⑩ 小林新聞舗（こばやししんぶんほ）［国の登録文化財］
大阪市内で最も古い朝日新聞販売所で明治22年創業、石造りの洋館風の外観が特長。近代の平野の歴史が体感できる。

⑯ 平野駅跡プロムナード（ひらのえきあと）
（旧南海電鉄平野線）
チンチン電車の愛称で親しまれた南海電鉄平野線の軌道敷地に設置された。（昭和58年4月完成）大正3年4月に開通以来、昭和55年11月まで、多くの人々の交通手段として活躍した。

⑭ 平野の黄金水（ひらののおうごんすい）
この井戸は良質の水に恵まれ、坂上廣野麿により荘園として開かれて以来、付近住民にとり貴重な飲料水であった。また平野の酒造業にも利用された。

⑦ 坂上廣野麿屋敷跡（さかのうえひろのまろやしきあと）
長寛寺の境内西北角に坂上屋敷があった。人々から平野殿と呼ばれ、その生活は島帽子、狩衣を常とした公家の様であったという。

⑮ 赤留比売命神社（三十歩神社）（あかるひめのみことじんじゃ（さんじゅっぽじんじゃ））
新撰姓氏録に記載の女神、赤留比売命を祀る。俗称の三十歩神社は、応永年間（1394～1428年）三ぱつのとき、法華経三十部を読誦したところ霊験あらたかであったので、三十部神社がなまったものという。これにより折雨の神として信仰が深かった。また住吉大社の末社であった関係で、珍しい荒和魂の神事が、七名家により今もとり行われている。社殿背後の土塁と松山池には、かつての環濠集落の名残りが見られる。

○平野郷　町の歴史案内人
「人と人　つながりの風」を案内しています。

○松村長二郎さん・150年以上の歴史をもつ町家の民話「まつや」の店主。平野民俗資料館として平野郷を記録中。平野郷HOPEゾーン協議会会長。

○平野連合町会長・大野靖雄さん

○区民センター館長・藤原陽さん

※お願い
○いつでも自由に、ゆったりとした計画で気軽にご参加ください。
◎交通ルールを守り、交通事故等に遭われないようにご注意ください。
又、参加中の事故・怪我については、一切責任を負ませんのでご了承ください。

□発行：平野区役所　総務担当（総合企画）
〒547-8580 大阪市平野区背戸口3-8-19
Tel.4302-9919 Fax.6700-0190
○ホームページアドレス　http://www.city.osaka.lg.jp/hirano/
□デザイン企画制作［タニデザイン研究所］

平野区の花　わた